令和４年度　白鷺教育会退職者交流会の報告

～東井義雄のあしあとを訪ねて～

10 月 28 日早朝、秋本番を迎え朝冷えのする中、バスは姫路を出発、加古川経由で播但道に入り、途中「道の駅神河」で神崎支部の 7 名を乗せて、一路東井義雄記念館を目指しました。生野峠あたりからは、山間に但馬の風物詩の雲海も現れ、少し色づいてきた樹木にも深まる秋を感じました。

東井先生が生まれ育ち、教育を実践してこられた豊岡市但東町を訪ねようと計画したのは、白鷺教育会が 120 周年を迎えた令和 2 年でした。しかしながらコロナ禍で延期を余儀なくされ、実に 3 年越しの目的達成となりました。東井義雄記念館は、但東庁舎の分館内の図書館に併設されています。ここで但馬支部の 12 名と合流し、合計 40 名の参加者となりました。進藤会長からこの交流会の目的の一つ目は 120 周年記念講演「東井義雄先生の人と教育」で学んだことをさらに深めること、二つ目は会員同士の交流と親睦を深めることという挨拶がありました。そして白もくれんの会の衣川会長と当館の升田館長からお話があり、その後二つに分かれて、「東井義雄の生涯」を描いた DVD 鑑賞と、記念館の見学をしました。

記念館に入ると東井先生の胸像が私たちを迎えてくれました。中に入ると当時のままの週録などが展示されていて先生の熱い思いを肌で感じることができ、本棚に並んだ著書の数にも圧倒されました。今でも「いのちの教育」に生涯をささげた東井先生の足跡を慕って、全国各地から来館されるとのことでした。白もくれんの会は、東井先生の遺徳を偲ぶと共に、その教育思想に学びつつ研鑽に努め、人づくり・地域づくりに寄与することを目的として、平成 6 年に発足し、会の運営は全国からの会員・会友でもってなされているとのことです。今もなお脈々と東井先生の教育思想が全国に息づいていることは素晴らしいことだと思いました。

その後、出石の町で皿そばに舌鼓を打ち、食後は出石町にゆかりがあり、東井先生とほぼ同時代に活躍された洋画家伊藤清永記念館で、学芸員から伊藤画伯の生い立ちや作品の解説をしっかり聞いたのち、鑑賞をしました。最後に出石の町並みを散策し、但馬支部の皆さんと別れて帰路につきました。解散時には、「今日は充実していたな」「いい研修となったな」という声が聞こえていました。

今回の交流会は、計画をして頂いた厚生部の成田先生や但馬支部の皆様の熱い思いを実感するものになりました。東井先生や伊藤画伯だけでなく、その他の豊岡出身の偉人たちの紹介もあり、但馬の歴史や文化を学ぶいい機会を頂きました。本当にありがとうございました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

（厚生部　足立　芳彦）